

情報化促進貢献個人等表彰推薦書

推薦者	氏名又は法人名	情報保存研究会 (JHK)
	(法人の場合又は複数者の連名により推薦する場合) 代表者名	会長 榊 満塁
	(法人の場合又は複数者の連名により推薦する場合) 連絡担当者名	
	住所又は所在地	〒153-0043 東京都目黒区東山3-1-19-1001 株式会社ブリッシュ気付
	電話番号	情報保存研究会 会長
推薦対象者	(ふりがな)	こくさいまいくろしゃしんこうぎょうしゃ もりまつ よしたか
	氏名又は企業等の名称	(株) 国際マイクロ写真工業社 森松義喬
	現住所	〒162-0833 東京都新宿区筆筒町 4-3
		取締役会長
	生年月日又は創立日	昭和37年1月1日
個人の履歴、又は法人の概要	<p>●(株) 国際マイクロ写真工業社 取締役会長 森松義喬 (2021年6月現在)</p> <p>◆日本複写連 青年部創設 ◆東京中小企業家同友会 青年部創設 ◆関東イメージ業連合会理事 等</p> <p>1962年 創立 創業者 森松幹雄(森松義喬の父親)</p> <p>1985年 同社 入社 森松義喬 (創業者の子息)</p> <p>1987年 同社 社長代理 森松義喬 (父である創業社長が脳梗塞、25歳で社長代理となる)</p> <p>1995年 同社 代表取締役社長 森松義喬 (二代目社長)</p> <p>2020年 同社 代表取締役社長 森松久恵 (三代目社長) 森松義喬の実妹</p>	
該当するテーマ (該当テーマに✓)	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 情報技術を用いた遠隔・非対面・非接触対応への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> (2) 我が国の教育現場における新たな学び方の構築への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> (3) 「新たな日常」を支える安心・安全な生活の実現への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> (4) 社会活動等を通じた業界や情報政策立案・策定への貢献	
推薦理由(概要)	業績の要約(2行程度)	
	<p>●官公庁・大学・民間企業等の資料 デジタル化業務を拡大 ●中央官公庁の情報アーカイブズ機関へ</p> <p>●品質マネジメントシステム ISO9001 を同業者(中小企業)に推進 ●顧客のニーズ & シーズ の対応</p>	
	推薦理由	
	<p>●官公庁・大学・民間企業等の資料 アーカイブズ機関(記録庫)の「紙・フィルム」のデジタル化業務を他社に先駆けて対応する。 エンドユーザー様に直接デジタル化の提案と実現を促す。国内の「歴史資料の適性なデジタル化」を数年早める。 等 下記のとおり。</p> <p>●国際マイクロ写真工業社の実績： ●中央官公庁の情報アーカイブズ機関へ： ●品質マネジメントシステム ISO9001 を同業者(中小企業)に推進： ●顧客のニーズ & シーズ の対応：</p> <p>●国際マイクロ写真工業社の実績： ※1 国家アーカイブズ機関の「実績」は現在 国内最多となる。</p>	
	<p>https://kmsym.com/bunken/mituori2016.pdf ※1 </p>	
<p>●中央官公庁の情報アーカイブズ機関へ： 「仕様書」(アナログ情報のデジタル化)の作成補助・お手伝いを実行。 「仕様書」の官公庁による作成の段階より、入札時に配布する「仕様書」作成に関する情報を魁て提供。 又、各アーカイブズの閲覧者複写代行の「デジタル化・ボックスキャナ等サービス」の実現。 ※2 事例：外務省外交史料館様の複写料金表 (防衛省戦史部・東大史料編纂所等 多数)</p> <p>https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/shiryo/pdfs/fukusha_t.pdf ※2 </p>		

●品質マネジメントシステム ISO9001 を同業者（中小企業）に推進：
各種の青年経営者の創部に森松義喬は携わる。特に日本複写連関東部の青年部会にて、
1999年から「品質マネジメントシステム」ISO9001 の必要性を4回講演。
(ISO9001 認証の途中経過 や 中小企業振興公社の品質マネジメントのビデオを参照させる 等)

その後も「情報セキュリティマネジメントシステム」ISO27001 等の第三者認証を取得。
中小企業の先駆者・啓蒙役となる。

※3 大企業に負けない管理体制・第三者認証の取得とその啓蒙活動

https://www.kmsym.com/info/info_top.htm#003

※3



●顧客のニーズ & シーズ の対応：
HPを先駆けて作成。「他社との違い」と「参考文献」は特にデジタル化推進に繋がる。
「他社との違い」には【作業環境の改善】【技術力の蓄積】【設備の充実】【セキュリティ体制】
【情報収集と情報発信】【マスコミ評価】【社内教育】【環境対策】等を可能な限り、
AD変換（アナログ・デジタル変換）の実現化を先んじて図り、情報を公開する。
「参考文献」は「与野党への提案」が記される。

※4 HPの公開当時より、当HPによる「無償の情報公開」をファイリング企業等も模写。

<https://kmsym.com/itai/houdai.htm>

※4



内容の要点、実績・経済社会に与えた効果
【内容の要点】

●【参考情報の公開】社内外にて提供した情報量：
●中小企業のデジタル化の啓蒙：
●大企業の下請けを早々に脱却：
●唯一無二の当社の技術力：
●アナログ・デジタルの比較情報の調査と公開：
●国内 TOPの技術点：

●【参考情報の公開】社内外にて提供した情報量：
1985年 森松義喬氏（現在58歳）は日本大学経済学部卒業後（創業社長は父 森松幹雄）入社。
中央官公庁アーカイブズ所有の「貴重な記録」の「マイクロフィルム化」業務と平行して、
1989年の10ヶ月 勤務時間後に「情報処理」、大原学園にて
「コンピュータによる未知の可能性」を学び、「デジタル化実施」の研究に繋げる。

1995年のウィンドウズ95以降、火急国際マイクロに富士通のパソコンを導入して様々な実験を繰返す。
中央官公庁等所蔵「貴重な記録」の仕様書の作成から協力し、デジタル化とアナログ化の長所・短所を
調査・確認し、国内外情報の収集をいち早くHPを作成して公開。

※5 公開を開始した「参考文献」は多くのアーカイブズと全国のファイリング業者等が参照。

<https://kmsym.com/bunken/itiran.htm#003>

※5



●中小企業のデジタル化の啓蒙：
森松義喬は所属していた各組合の青年部、特に関東複写連の青年部（青年社長の会）の創設に
関わり、デジタル化業務の有効性と品質管理ISO9001・ISO27001等の取得の推進とその強化を実行。
媒体変換業者として当然あるべき管理体制（社会的存在価値）、その意義を唱え続ける。

森松義喬は1995年に国際マイクロの「HPを立ち上げ」を自ら開始。
（事前にパソコン通信・・・マイトークを購入してWEB公開を準備していた）

掲載情報（国内外の情報）を整理し、その情報の「参照の許可」を得られたもの限り、
HPプロバイダー等にUP。それらの内容をお客様・デジタル関連同業者等へいち早く公開する。
現在も最新のSNSによる公開等を始めている。

●大企業の下請けを早々に脱却：
官公庁の入札にて「記録のデジタル化」の実務を全う出来る専門技術者は、ほとんどの場合、中小企業の
技術者が末端にある。
中小企業の優秀なデジタル化に関わる専門技術者が、内々に大企業の下請けとなる現状が多々ある。

森松義喬は「官公需適格組合」により、大企業のみが入札となる官公庁のAランク入札の
デジタル化業務「国立国会図書館大量電子化」へ、参加した組合を入札業者として「落札」を実現。
多くの中小企業からの「称賛」を受ける。

業務の実現力を持つ中小企業が、大企業が伝票を通すのみの丸投げの（下請け）と成る仕組みを排除する
事例（関東地区では特に珍しい）となった。

●唯一無二の当社の技術力:
「デジタル化」に実際に携わり、現場のユーザーと共に創意工夫を実行する当社が国内デジタル化企業の師表となるべく開発等も実現。
国家プロジェクトの国立国会図書館 大量電子化プロジェクトを「外注なく対応した」組織、国際マイクロは、唯一無二のデジタル化の技術力とノウハウ、実績を持つ。

中央官公庁・大学関連・研究所関連等所有の「貴重な記録」の大量デジタル化の「仕様書作成」の時点で先駆けての提案を多く行い、実力ある会社によるデジタル化作業に貢献。

※6 実績: 官公需適格組合で落札・国立国会図書館資料 大量電子化プロジェクト

<https://kmsym.com/top/koltukai.html>

※6



●アナログ・デジタルの比較情報の調査と公開:
「記録情報」の「保存」と「活用」の双方の長所を活かす機材等を設置（欧米機器）。
「デジタル情報」と「アナログ情報」双方の「長所」と「短所」、海外情報をHPにて公開。
(調査は専門家数名と国内外の情報を収集)
新しい「デジタル化の機材」と新しい「アナログ対応の提案」、双方の研究と実現をいち早く対応し、500年の未来から静観する「理想のアーカイブス」を追究してゆく。

※7 欧米と国内の情報を収集して公開

<https://kmsym.com/polycom/polycom2.htm>

※7



●国内 TOPの技術点:
新しい入札制度・総合評価点制度にて（2009年～）最高技術点を取得。
（9社中5社は店頭公開企業）
「ファイリング業界」には「総合評価点制度」はまだ馴染みが無い。
しかし「ゼネコン業界」で見直される「丸投げ禁止」の新しい入札制度。
「ファイリング業界」は現在も大企業からの丸投げ（内々による）や 資本注入が横行している。

当社にて「総合評価点制度」をwebにて図解で説明。（HPにて）
2009年の社会保険庁「台帳の電子化業務」の入札においては、大企業をふくめて当社は国内TOPの技術点・評価点を得る。
国内外のデジタル化の実力をもつ中小企業、その不可能を可能とする事例となる。
※8 デジタルファイリングの業界の未来を造る入札形式「総合評価点制度」の啓蒙。

<https://kmsym.com/sougouhyouka/sougouhyouka.htm>

※8



【技術的・経済的優位性】

※技術・研究開発に関する功績の場合のみ記載

●お客様からダイレクトの「ニーズ」に対応:
●ファイリングソフトの開発と 資材販売品の提供:

●お客様からダイレクトの「ニーズ」に対応:
大企業の下請けではなく、直受けで可能になる最たる長所は、ニーズの聴衆・取材力。

1962年創業以来、お客様方の希望・依頼・不満などには創業者から受け継いだ「不可能を可能とする姿勢で仕事に望む」経営理念を遵守。
お客様のご要望やご希望のすべてを絶対に拒絶せず
「研究してみましょう・宿題とさせて下さい」と「必ず一度受け入れる」
その 姿勢を貫いていることが多くの同業他社よりも極端にこだわる経営方針であり、現在も将来も実行してゆく。

そのため、様々な研究開発が必要。最新機材の購入だけではなく、その改良・開発等を絶えず行う形となるため、社内でも挑戦したものは多数、今後挑戦する「チャレンジシート」の項目はニーズ・シーズを含めると200件以上。毎々それらが増加してはより良い「解決」へと繋げる。
東京都新製品開発助成金等も三回以上合格。所属する首都圏ソフトウェア共同組合による各ソフトの開発者に、様々な業種のサポートを戴きながら 可能な限り、お客様のご要望に応えるための「技術開発」に対応。

※9 開発の一部 大型絵図撮影・貴重洋書30度撮影機（産総研との共同研究）等

<https://kmsym.com/dsystem/menu/dcame/dcame.htm#n>

※9



●ファイリングソフトの開発と資材販売品の提供：
デジタル化された画像の参照ソフトのご要望が重なり、それらソフト開発も社内外にて対応する事と成り、「無料でそのソフトがほしい」とのご要望にも可能な限り応えている。
(★社外秘情報・同業他社へ：当社ビューワソフトから当社販促情報にリンク)

資材販売部を1994年に始動（当社へのご要望にお応えして）
それらはフィルム・紙資料等の記録資料に必要な不可欠な保存ケースや特殊キャビネットを全国のアーカイブズだけではなく、現在では同業者に卸販売にも応える形となっている。
(創業者の方針：儲けすぎない損しない、を遵守し企業の延命を図っている)
(★社外秘情報・同業他社へ：当社ビューワソフトから資材販売情報にリンク)
※10 当社開発 ビューワソフト

<https://www.kmsym.com/kmview/top.htm>

※10



【実績・社会に与えた効果】

※社会に与えたインパクトを客観的に判断できるよう、可能な限り定量データも記載

- 最先端情報で動けた「古文書デジカメ撮影の技術」：
- 「カラーマネジメントの概念」を「ファイリング業界」に導入：

●最先端情報で動けた「古文書デジカメ撮影の技術」：
国際マイクロが最先端を歩めた2つ★の理由。

★国文学研究資料館様の古文書デジタル化実験において、当時高価なデジタルカメラ撮影を国文研様が購入。当社のみが専属で借用させて戴く「パイロット実験担当会社」としてご指名を戴けた為。

★1996年当時 1200万画素の一眼レフのデジタルカメラが百数十万円と高価な時代に「下記対応」。
【現在2020年にはワンカットで1億5000万画素・世界最高水準の 超高画素デジタルカメラを国際マイクロにて先駆けて導入】

1996年当時「古文書のデジタルカメラ撮影」の国内最先端の事例として、
1997年 全国歴史資料利用保存連絡協議会の全国大会（香川県）において歴史学大学教授で最先端を走っている 多仁照廣先生が それら実務の苦難を講演した。
全国において、古文書・公文書のデジタル撮影の事例説明会はそれが初めての出来事であり、特に注目を集め、当社はそれら情報をいち早く「共有」が出来た。

多仁照廣先生と国際マイクロの創業社長は、
50年以上関わりを持っており、「古文書のデジタル化」という業界初の取組みを行っている多仁照廣先生から森松義喬へ「デジカメ撮影技術」(多くの失敗談等も含めて) の情報を共有して戴いていた為。

★★「失敗の数 世界一位」、それら失敗のひとつひとつをほとんど妥協無く対策を行う。
「高品質化を維持する仕様書の作製」が可能な限り出来るようになる。
それは、他の中央官公庁アーカイブズの仕様書作成に寄与する基盤となり、現在の歴史資料のデジタル化の仕様書の中にも多く生きている。

※11 多仁照廣先生 講演会後の討論会の記録（当時注目をあびた最先端の事例）
<http://www.jsai.jp/kanko/kaiho/kaiho41.html#45>

[http://www.jsai.jp/pdf/+43.44\(07\)kaihouKarasuno.pdf](http://www.jsai.jp/pdf/+43.44(07)kaihouKarasuno.pdf)

※11



●「カラーマネジメントの概念」を「ファイリング業界」に導入：
「古文書のデジタルカメラ撮影」には、現在は必要不可欠な「カラーマネジメントの概念」。
それが当初「ファイリング業界」には無かった。
当社はすでに出来上がっていた「印刷業界」の「カラーマネジメントの手法」を導入した。
それが現在のファイリング業界の基盤となって現在各アーカイブズデジタル化の仕様書に活かしている。

●中小企業の管理体制を大企業レベルに：
中央官公庁等の入札の参加条件に「第三者認証」等が明記された。
かつて多くの中小企業においては、大企業の管理体制とは比べ物にならないほど距離がある組織が多かった。
しかし、代表森松氏による経営者 青年部の会等における啓蒙活動やHPIによる情報の公開等を行い、それにより、早い段階で「管理体制の第三者認証」に踏み切った青年部の多くの会社は、大企業と同等レベルの管理体制が構築出来たため、デジタル化事業の大きな促進とその継続にも繋がっている。

推薦理由
(具体的貢献内容)

その他(特記事項)

●国家プロジェクトを実現可能な唯一無二の会社:
★A:歴史資料の扱い方(宮内庁 御用達・徳川博物館 御指名):
★B:国家電子化プロジェクトを外注なく対応した唯一無二の会社:

●開発案件の受賞:
◆「SDGs」の国際マイクロの取組み
◆先駆けた当社HPの「参考文献」
◆当社HP「他社との違い」「マスコミ評価の違い」

●国家プロジェクトを実現可能な唯一無二の会社:
古文書は全国に20億点存在、と言われている。
世界最高峰の識字率の各地にある日本人により各地 47都道府県にある膨大な過去の情報。
しかし今、各地の過去の記録は「廃棄や経年劣化等」、崩壊の危機にある。

当社が持つデジタル化の技術(撮影方法やソフト等を含めたノウハウ)を47都道府県にある素人に教える仕組みを実行する。
「地方の創生」の核として「各地方の過去情報」を「各地方の未来の商い」に有効活用するべく進めてゆくプロジェクトが必要不可欠である。「温故知新の実行」

各県の健全な潜在的労働力(シルバー人材・身障者・専業主婦等)に当社が各県プロに統一した高品質なノウハウを提供。
仕様書・指示書等を作成できる当社技術を国内の潜在的労働力へ加速度的に伝授させる仕組み作りが可能。(国内同業者社長の多くの同意を得る)

当社では既にAI(人工知能)による古文書の翻刻の仕組み作りに参画。

「温故知新の実行」による「日本経済の復活」を厚生労働省等官公庁・与野党代議士に提案。

●国家プロジェクトを提案できる国内TOP・唯一無二の国際マイクロ: 下記

- ★A:貴重資料の取り扱い能力
- ★B:デジタル化の対応能力(300人の素人のセミプロ化に成功…1~3か月)
- ※12 与野党への提案中の一部

<https://kmsym.com/bunken/201901kms.pdf>

※12



★A:
歴史資料の扱い方(宮内庁 御用達・徳川博物館 御指名):
の「古文書の撮影会社」として宮内庁様から30年以上の御用達会社。
徳川博物館様からは撮影者の技能を認めて戴き直近5年以上に渡り御指名を戴いている。
※13 宮内庁御用達・徳川博物館ご指名

https://kmsym.com/k_kunai.pdf

※13



https://kmsym.com/k_tokuga.pdf



★B:
国家電子化プロジェクトを外注なく対応した唯一無二の会社:
7億円におよぶ国立国会図書館大量電子化プロジェクトの全ての業務を外注無く一社で対応できる技術を要す国内外で唯一の会社。大量に処理しながら作成した超実務的なアプリケーションソフトの作成費は5千万円を超した。それらアプリケーションソフトを国への無償提供も準備している。

※米国最先端企業の取材を拒否:
米国インターネットアーカイブ社の代表K氏から 当社のNDL大量電子化の作業場の見学を切望するが拒否。それほどの当社のデジタル撮影技能とソフトを 国内の新規国家プロジェクトにて60~90% (それ以上は非常に高価で困難な機材が必要なので非現実的)を公開・伝授する方針で日本国内の与野党に提案中。

※14 大量電子化プロジェクト作成時に作成したアプリケーションソフト

<https://kmsym.com/top/kms%20sofuto.pdf>

※14



●開発案件の受賞:

- ◆当社にて開発している特許案件の一つが平成21年 新宿区優良企業「優秀賞」を受賞。
※15 「新宿活き活き経営賞」として評価

<https://kmsym.com/s-panfu.jpg>

※15



◆「SDGs」の国際マイクロの取組み ※16

<https://www.kmsym.com/bunken/sdgs/sdgs.html>

※16



◆先駆けた当社HPの「参考文献」 ※17

<https://kmsym.com/bunken/itiran.htm>

※17



◆当社HP「他社との違い」「マスコミ評価の違い」 ※18

<https://kmsym.com/iitai/houdai.htm#t5>

※18

